

日時 令和6年12月12日(木曜日)10時から12時まで

場所 大阪府新別館北館1階 会議室兼防災活動スペース2

出席者 委員(◎部会長、○部会長代理)

伊藤 央二	中京大学 スポーツ科学部 教授
○富山 浩三	大阪体育大学 スポーツ科学部 教授 学長補佐
春名 秀子	桃山学院教育大学 人間教育学部 人間教育学科 講師
◎比嘉 悟	近畿医療専門学校 副校長
横山 久代	大阪公立大学 都市健康・スポーツ研究センター 教授

オブザーバー

大阪市 経済戦略局スポーツ部スポーツ課担当係長

大阪商工会議所 産業部スポーツ産業振興担当主任

公益財団法人大阪観光局 観光事業部観光コンテンツ開発担当部長

## 1 開会

- 事務局 部会委員の二分の一以上が出席し、部会運営要領第4第2号に規定する定足数を満たし、会議が有効に成立していることを報告

## 2 挨拶

○府民文化部文化・スポーツ室スポーツ振興課長挨拶

## 3 議事

第3次大阪府スポーツ推進計画の見直しについて

[質疑応答等] □・・・部会長 △・・・委員 ■・・・事務局

### (1) 議題1 計画部会等における主な意見の整理

- (資料2により前回計画部会等における主な意見について説明)

△ 資料2⑤の「スポーツの価値と力について」で、スポーツ庁の調査ではウェルビーイングの質問項目を増やそうという動きになっている、とあるが、増やそうというより、既に入っている。11月の今年の調査でも、おそらく項目自体は増えていないと思う。

□ 前回の会議では、委員の皆様から計画全般に関すること、また、計画全般についてのスポーツツーリズム・障がい者スポーツ、それからスポーツ地域活性化、学校部活動の地域移行、そういう個別の分野について様々な意見をいただき、多様な議論を行うことができた。

引き続きスポーツの取り巻く環境の変化等に注視しながら、取組を進めていく必要があると思う。

### (2) 議題2 第3次大阪府スポーツ推進計画の改訂について(骨子案)

- (資料3により計画見直しのたたき台について、資料4により計画見直しのスケジュールについて、資料5により骨子案について説明)

① 数値目標の設定」及び「部活動の地域移行の取組」の第6章への追記について

② 数値目標の指標「20歳以上の週1回以上のスポーツ実施率の向上」と「スポーツ参画状況(「する」「みる」「ささえる」とwell-being(ウェルビーイング)の向上)について

△ 部活動の地域移行については、話題性があり待ったなしの状況である。一方で国の方針を見極めることが必要と考える。総合型地域スポーツクラブが受け皿となれるかの問題。学校部活動の地域移行は、地域におけるスポーツの在り方が変わると想像する。

△ 事務局がまとめたとおり、「数値目標」を設定することと、ホットなトピックである「部活動の地域移行」の取組を第6章に追記するという事は、良いと思う。

△ それらを踏まえて、第4次計画につなげていけるような形におそらくできるのかと思う。

### ③ 「目標値」「達成年度」について(スポーツ実施率)

- △ コロナ禍の影響の分析が無い中、2020年度の数値（過去最高の59.5%）を根拠に60%を指標とすべきなのは疑問である。本来目指す70%が良いと思う。
- △ 目標値は達成しなければならないもの。一方で国の目標が70%ということを考えれば、目指すものとして70%というのも分かる。
- △ 70%は、ほぼ達成できないので、達成することを持って60%とすべきでは。目標値は達成しなければならないものであり、現実的な考えをすべき。ただ、59.5%の数値を目指すのが本当に正解なのか分からない。
- △ 前回の計画が50%と現実志向で設定しており、大阪府として一貫した考えで設定する必要もある。
- △ 20歳以上となってくると、学校を卒業した成人ということなので、高齢者が増えていっているのか、その辺の中身は知りたいと思う。実態を見ながら、とりあえず努力するところを作って目指すということも現実的な話かと思う。
- △ 達成しなかった場合、次の計画にどう生かすのかということにも影響してくるので、努力が必要。整合性をつけるのなら問題はないが、目標をどう捉えるか、というところ。目指すべきところ（70%）を目標に据える方が良いと思う。
- 70%というのは、国が示している数字であり、それに従ってやった方がいいと思うので、70%とさせていただきます。達成すべき年度は、最終年度の令和8年度でよいと思う。

#### ④「目標値」「達成年度」について(スポーツ参画状況)

##### △【参考5（スポーツとウェルビーイング）の説明】

府民の地域スポーツクラブの会員と非会員とのデータを分析すると、会員である方がスポーツ頻度が高く、ソーシャル・キャピタルや主観的ウェルビーイングも高いものが多い。また、信頼ケア・ネットワークという地域のソーシャル・キャピタルと言われる地域のネットワークがあるものと、ウェルビーイングのつながりが多いという結果になっている。

スポーツをすることそのものより、スポーツをして、いろいろなネットワークができて、友達ができたり、仲間と活動できるということが、ウェルビーイングにつながるのか、という前提で調査をしたところ、やはりそれに裏付けられるような結果が出ている。

あまり直接的な指標でウェルビーイングを高めるということになると、本末転倒になってしまうので、「人々がウェルビーイングスポーツを楽しむと、こんなふうにウェルビーイングが高まるのだよ」という参考資料的に使って、これを直接的に高めに行くような表記ではない方がいいのではないかな。

また、「主観的ウェルビーイング」というのがあるが、例えば、ウェルビーイングというのは、年収とか、仕事とか、家とか、いろいろな要因があつてのウェルビーイングだと思うので、それだけを高めに行くというのは難しい。そういう漠然とした意味のものになるので、あまり直接的に見ないで、補足資料という形でやりたいと思う。

- △ 先ほどの指標の数値が70%であるのなら、今回も100%でいいのではないかな。前半の実施率は理想で、こちらは現実的とずれてくるとおかしいと思うので、揃えるのがいい。令和8年度、これも考え方を揃えた方が良くと思う。
- △ 「スポーツ参画状況」と「ウェルビーイングの向上」というふうに指標が書かれているが、「ウェルビーイングの向上」は数値は関係ない。見ているのは参画状況だけなので、言い方的に「ウェルビーイング向上にも直結するスポーツ参画状況」という言い方にしないと、結局どっちを見ているのだということになる。そのあたりしっかり言葉を考えないと誤解が生まれる。
- △ 全くスポーツに興味ないという人は、100%という否定しかねないという気もしたが、スポーツの捉え方だと思うが、レクリエーションスポーツとか、レクリエーションゲームまでを含む、さらにはeスポーツまで含むのかどうかというところは、また、議論があるが、多分、かなりスポーツ寄りになってくるのかと思うし、そういうことまで含めて自分がスポーツをしているということであれば、100%を目指すのがいいのかと思う。
- △ 一方で、ウェルビーイングに影響する要素というのは、たくさんものがあるが、スポーツはあくまでその一手段であると思う。  
全くこのスポーツに参画していなかった方が、充実を感じているという人が半数近くいるので、そういった人たちをスポーツに何らかの形で参画してもらうというのは、非常に困難な道のりかと思っている。

ウェルビーイングの数値としては出せると思うが、あくまで何らかの形でスポーツに参画するという  
ことに関して「数値目標」を設定するという事で、ウェルビーイングに関しては、数値としては設ける  
という位置づけでいいのかと思う。

△ 私もずっとスポーツをしてきた方なので、スポーツをすると仲間もできるし、人格形成にもつながるし、  
豊かな心で生きていけるといえるか、先の展望が持てるいいことしか出てこないの、ウェルビーイングと  
いうのがそうだと納得している。

△ ウェルビーイングという言葉は、自分の中では、これから大事な感覚だと思っていたが、それを押しつ  
けない形で100%を目指すべきだと思う。幅広いスポーツとの関わり方というのを考えていけば、全く可  
能性はないことではない気がするの、その形で100%、令和8年度で賛成させていただく。

△ スポーツを「する」「みる」「ささえる」、これは一年に1回でもよい、ということか。

■ スポーツ庁の調査では過去1年間である。

△ 1年間でやればという、ということ。運動の定義が広がっている中で、「孫のお遊戯会を観るのもウェ  
ルビーイングです」という説明をしながら、ウェルビーイングにつながるような「する」「みる」「ささ  
える」の参画という表現にして、「スポーツを強制するものではありません」という意味合いを持って  
100%ということでもいいかと思う。

□ 目標値は100%、達成年度は令和8年度ということをお願いしたい。

■ 今後、きちんと誤解を与えないような表記の仕方について、事務局としても注視しながら見直し案の作  
成をしていく。

#### ⑤ 参考指標について

△ 事務局提案の項目(大阪府ではスポーツが盛んだと思う人の割合)を追加することはよろしいかと思う。  
あくまで参考指標なので、参考になるような数値であれば入れていただくことはかまわない。

△ ワールドマスターズゲームズ2027 関西の認知度や、大阪マラソンの外国人エントリー数も、追加して  
いただくことを検討いただきたい。

■ ご提案いただいた項目について、追加させていただく。

#### ⑥ 学校部活動の地域移行について

△ 改訂版のところちょっと気になった書き方で、第6章のところに「計画の見直し及び進捗管理」が入  
るとあるが、1つ目が「スポーツを取り巻く環境の変化と本府の状況」で、2つ目が「国の動向等を踏ま  
えた府の取組について」、こちらに学校部活動の地域移行が入ると。めくってみると、3の「計画の見直  
しについて」は、今まで議論した数値目標が入るとのこと。そうすると、この「学校部活動の地域移行」  
は、計画の見直しというところまではいかないが、何かこの2つ目の「これを踏まえて」のアクションがない  
と、1番は数値が入るのに、2番の府の取組については、何も記載がないのはおかしいかと思う。

2で国の動向を踏まえた全体の流れを書いていただいて、例えば「モデルでこういうことやられていま  
す」とか、今、ご説明されたこととかを書いていただくよう、分けた方がいいのかと思った。

△ 参考指標で、新しい指標が追記されるということだが、やはりこちらも「学校部活動の地域移行」のこ  
とが入ってくるので、それに関わる何かKPIではないが、参考指標を入れた方がいいのかと思う。

例えば参考6の10ページ目、「地域クラブ活動体制整備事業等」の「部活動指導員の配置支援実績」な  
どは、令和元年から着々と増えているので、そういったところの数値を参考指標みたいに入れていただ  
くと、実際これが進んできているのだと分かるのではないかと思う。

■ 2の取組みと参考指標について、検討させていただく。

□ 私は、部活動について以前も申し上げたが、「部活動は、世界に誇る文化遺産」というのをずっと思っ  
ている。よその国にはない、みんなが、できる子もできない子も集まって、平等にやらせてもらって、そ  
の中からオリンピック選手も出ている。日本だけであり、そういう意味では「部活動は、世界に誇る日本  
の文化遺産」だといって、これからも大事にやらないといけないと思う。

私は、今、ずっと電車を通っているが、やはりお客さんはちゃんと並ぶ。当たり前のことだが、外国は  
知らないが、見たら日本の人は素晴らしいと。それも中学校・高校での部活動での経験が、ちゃんと並ん  
でいくというのが自然に体でできているというのが、部活動の良さではないかと思う。

引き続き、子どもたちの新たなスポーツの環境、中学校の「部活動の地域移行」というのは、難しい課

題があるが、個人的にいうと、スポーツの指導者というのは、学校の先生方がやる方がいいのではないかなと思う。やはり部活動も学校生活の一部の指導を受けた先生がやるのが一番うまくいくのではないかな。特に大阪府は、いろいろなスポーツを今までやってきて新しい案を出しているのだから、この部活動についても、全国に先駆けて、いい案を考えてやって欲しい。

△ 今回もいろいろな指標が定まったので、それをどうやって達成していくかというところ。例えば、部活動が地域に移行したら、「参画人口が増えるのではないかな」とか、「保護者も地域と一緒に関わられるようになると参画人口が増える」とか、それで「一緒に保護者も、する人も増える」とか、そのような全体像みたいな、今回、定めた指標にどう貢献するかみたいなことも、そんな視点があってもいいのではないかなと思う。

△ 非常にこれだけ「部活動の地域移行」に関して大阪府で進捗しているということに、大変驚いて、着実に進めてこられているのかと改めて思った。

この部活動の現状を見せていただくと、部活動の数は維持しつつ、参加人数がどんどん減って行って、この体制で継続していくのは、本当に厳しいことだと思う。

一方で、部活動に参加する子どもたちが、地域移行によって、非常にメリットも大きいと思うし、専門的な指導者のもとで活動ができたり、他校の生徒と交流できるというメリットがあるので、そのスポーツの楽しみを膨らませるということについては、この基本理念にもマッチするところだと思う。

△ 指導者のスキルとか、質をどう担保するのかというところ、部活動として活動する子どもたちの部活動の理念をどういうふうに共有して、地域でもやっていくのかというところは課題だと思うが、やはりそれをやっていかないといけないのではないかなと思っている。

「部活動の地域移行」ということで、移行から展開することで、この間、会議されていたが、既存の部活動をそのまま地域に移行するだけではなくて、地域の方で部活動の意義を否定するのではないが、競技性とか、レギュラーを取るとかになじまない子どもとか、いろいろなスポーツを楽しみでやってみたいといういろいろなニーズがあるかなと思うので、そういった子どもたちが参加できるような地域の活動というものをどれだけ用意できるのか、というのが重要だと思う。

それによって、スポーツが苦手だという子どもたちも、自由時間を充実させたり、生涯スポーツにつなげていけるような、そういったことが最終的には狙い目と思うので、どれだけ地域の受皿が運用できるか、あと、地域のスポーツクラブだと、立場とか年齢に関わらず、いろいろな世代と交流ができたり、それこそウェルビーイングにつながっていくところなのかなと思うので、そういったことができた結果、教員の負担が減り、まちの魅力が高まるというところになるのかなと思う。

△ 何らかの数値・目標のところだと、地域スポーツクラブに参加する子どもたちの人数の推移とかは満たしているもの。そのあたりは部活動から移行する、あるいは部活動には参加しないが、地域のクラブで活動しているという形が増えていけばいいのではないかなと思うので、検討していただければと思う。

△ 前回の資料から、各市のデータというか、仕組みとか取組状況が見えて進んでいるかなと思う。ここできていない市が、今、検討中とか、いろいろあるかなと思うが、各市の特徴であるとか、どこかのチームであるとか、施設が名乗り出て、中心となってそこがうねりを作ってというか、市の特徴がここに出ているような気がして見ている。

△ 今、中学校の先生も、各校体育の先生も3人か4人で回しているという現状で、いくつかの部活動もあり、行事なり、カリキュラムもこなすということで、大変な労力を使っているように聞いている。学校の現状とか、地域の特徴を活かした団体がうまく活動できたら、地域の生徒さんの扱い方であるとか、保護者の特徴であるとか、いろいろなそのようなものにうまく見合っていくのかなと思う。

△ 先ほどから数値のことが出ているが、現状は分かったが、ここから生徒たちの意見かどうかなというのは聞きたいと思うので、そこに参加している人の感想であるとか、それが先ほどの指針になるということであれば、興味もあって、見てみたいと思う。

△ 地域移行ができないと名乗りでた県もあり、生徒が減ったとしても、「何でもしようよ」という人も大事かなと思うが、「一つのものにかけて、難しいけれどもそれを達成したい」という強い気持ちを持っている生徒を育てるというのも教育の一環だし、クラブの特徴でもあるかなと思うので、両面対応していかなければいけないというのは、昔からそうだと思う。大会とか、いろいろ交流をやってきたことの成果発表であるとか、大きな大会を作って、何か発表する機会に保護者も、その姿を見て安心するとか、それは地域を越えてそういうことに「する」「みる」「ささえる」ということにつながるというのは大きいと思うので、

そういうことも実現していってもらいたい。

△ 「めっちゃ WAKUWAKU ダンス」もイオンモールで9会場やっているが、年々、子どもを観に来る親が増えてきて、ダンスのスタジオであるとか、いきいきの学校での成果発表の場であって、あのような場も貴重だというふうに思う。いろいろな人に観に来てもらうことに対する頑張りであるとか、そういうことを子どもたちにも感じてもらって、次の目標設定をしてもらうという、そういうことにつながっているのかと「めっちゃ WAKUWAKU ダンス」でいつも思う。

■ 骨子の方で、今後の記載の方向性について、貴重なご意見を頂戴して、検討していきたいと思う。国においても引き続き議論が続けられており、令和8年度以降の改革の進め方について、令和8年度から令和13年度までを改革実行期間という期間の表し方をしており、平日の実施を見据えた検討を進めていくという方向性についても、議論が活発に出ている。

「地域移行」の名称についても、地域に存在する人、地域の物的資源を活用しながら、地域全体で支えることによって、可能となる新たな価値を創出し、より豊かで幅広い活動を可能とすることをめざして、「地域展開」という名前にしていこうという議論をされている。

地域クラブ活動においては、これまで部活動が担ってきた教育的意義を継承・発展させつつ、新たな価値を創出することが重要であること、また、具体的な指標については、地域の実情に応じた多様な選択肢を認めていく必要があるということ、こちらも国のスタンスとしてあり、大阪府としてもそのように考えているので、国の動向を注視しながら、府下の地域移行が円滑に進むよう取組を進めていくという方向性の記載を中心に書かせていただきたいと思っている。

### (3) オブザーバーの意見

・ 大阪観光局では、スポーツをテーマにツーリズム展開をしている。「みる」「する」「ささえる」のスポーツ推進の中でいくつか事業を展開しているが、特に対人的なことや、情報発進的などところとか、スポーツ団体の連携、ネットワークを活かした情報発信など行っている。そういったところで、「みる」「する」「ささえる」のコンテンツを使ったツーリズムの展開をしている。

特にアウトドアでは、サイクリング・ブレイキング・ハイキング、こういったところを紹介して、大阪の地域の魅力と体験というところをうまく発信している。

スポーツというものが、このツーリズムという部分では、非常に大きな貢献をしているので、引き続きいろいろな取組については、われわれも協力していきたいと思っているので、よろしく願います。

・ 大阪市の方では、スポーツ振興計画といったのを掲げており、令和4年度から新たに第3次計画を策定しており、本日のご議論を参考にさせていただきながら、また、大阪府とも連携をしながら進めていきたいと思うので、よろしく願います。

・ 大阪商工会議所では、スポーツ産業振興という部署を持っており、産業の観点からスポーツを捉えていくということで、例えば、新しいテクノロジーを導入して、スポーツを普及することでより多くの人がスポーツに親しんだり、より多くの人が健康体であったり、そういうアプローチを考えている。

また、今日、議論いただいていた学校部活動の分野でも、いかに事業者に入りやすいような形にしているのか、我々としても協力していきたいと思っているので、今後ともよろしく願います。

## 4 閉会

■事務局 次回の日程・場所の確認